（令和８年１０月７日）　　**金属課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

令和８年２月末	令和８年５月末	令和８年８月見通し	令和８年11月見通し
＋３４千トン ［１９６０千トン］ （１０１．８%）	－１１千トン ［１９４９千トン］ （９９．４%）	－１２千トン ［１９３７千トン］ （９９．４%）	＋８千トン 〔１９４５千トン〕 （１００．４%）
１９３７千トン (98.8)	１９４０千トン (99.5)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和８年３月末	令和８年６月末	令和８年９月見通し	令和８年１２月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は133,300円。前期比＋200円。需要は低迷したままで前年割れが続いている。建設関連については人手不足や働き方改革の影響により需要が低迷している中、メーカー値上げ姿勢が本格化しており、流通は値上げの浸透に向け若干動いた。活況感はないが先行手配の動きも出始めた。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は135,800円。前期比+1,500円。スクラップ高、電力料金の値上げなどのコストアップ、更に中東情勢の要因により各メーカーで値上げが行われた。流通は仕入れを抑えているが需要が少なく在庫は過剰ぎみで、メーカーの価格上昇分をなんとか価格転嫁しようと動いているが。なかなか進まない状況であった。	８月は盆休みもあり稼働日数減に加え需要低調が続いた。９月に入ってもいまだ需要の盛り上がる気配がない。物件の見積りは一定量あるが、人手不足等の影響からか計画の延期や見直しが散見されている。９月はこのまま低調な動きで推移しそうだが、製鉄所の冠水被害の影響で製品出荷に影響が出てくるのではと懸念している。	大型物件の話は聞こえてきているが、中小物件は相変わらず少ない。豪雨の影響によるメーカーの出荷遅れが予想され、年末に向け荷動きが多少よくなる予想から需給にタイト感が出てくるだろう。流通としては上伸ペースが鈍い市況を底上げするためにも価格転嫁が最優先である。建築向けは構造的な要因がネックとなり、需要期という程の盛上りは期待できないと思われる。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

８月仕入量は110,741トン前月比-15.8%、前年同月比-5.2%、販売量は113,300トン前月比-19.2%、前年同月比-7.5%。仕入量、販売量はともに前月比著減、前年同月比は減少しました。在庫量は198,380トン前月比-1.3%、前年同月比+4.6%、在庫量は前月比減少、前年同月比増加しました。在庫率は175.1ポイントと上昇しました。８月に入っても荷動きは低迷を続けており、盆休みによる稼働日数減の影響により販売量は前月比著減、前年同月比減となっています。需要低迷が続いている中、流通はメーカーの値上げで市況は強含んでいますが、需要の低調さから思うように価格転嫁は進んでいない状況です。

４．大阪

（H形鋼・一般形鋼）７月の荷動きは６月が仮需の反動減で落ち込んだところから若干回復。８月の日当たりは横這いでしたが、トータルではお盆休みもあり稼働日減の影響が大きく減少した。９月は８月に比べ稼働日が増えると予想するが、需要面は低位横這い。

自動車メーカーは、概ね生産は回復してきているが、メーカーによっていまだに苦戦しているところもあり濃淡がある。

今後の見通しは、大型案件を中心にＩＲも一部動き出してきており、高炉メーカーはフル生産でも追いつかず、忙しくなる様子。一方、流通に影響の大きい中小案件は新しい案件が少なく低位横ばいの予想。但し、季節的にも夏場に落ち込んだ数量が回復する時期でもあり、大きな期待はできないが多少の需要回復が見込まれると予想。自動車は概ね横ばい圏で推移する見通し。主力モデルの全面改良や新型車投入などの追い風もあり年間では小幅な増加が期待されている。短期的には登録者の伸び悩みが続く可能性はあるものの、軽自動車や新型車効果で市場を一定程度下支えするとみられる。